

米国上院におけるリーバーマン・ワーナー（LW）法案の議事妨害終結採決 （2008年6月6日）の分析

2008年6月6日、米国連邦上院本会議でLW法案に対する議事妨害終結採決が行われた。

これは、法案に対する質疑及び討論を終結させて、法案そのものの賛否を問う採決をするか否かを問う採決である。

議事妨害終結採決には、過半数（定員100名中51票以上）ではなく、60票以上の賛成票が必要であるが、投票の結果、賛成票48票、反対票36票、不在16票で、議事妨害終結には至らず、LW法案そのものの採決は持ち越しとなった。

賛成票を投じた上院議員、不在者及び反対票を投じた議員の分析は以下のとおりである。

I. 採決の結果

賛成 48

Akaka (民-ハワイ)	Baucus (民-モンタナ)	Bayh (民-インディアナ)	Bingaman (民-ニューメキシコ)
Boxer (民-カリフォルニア)	Cantwell (民-ワシントン)	Cardin (民-メリーランド)	Carper (民-デラウェア)
Casey (民-ペンシルバニア)	Collins (共-メイン)	Dodd (民-コネチカット)	Dole (共-ノースカロライナ)
Durbin (民-イリノイ)	Feingold (民-ウィスコンシン)	Feinstein (民-カリフォルニア)	Harkin (民-アイオワ)
Inouye (民-ハワイ)	Kerry (民-マサチューセッツ)	Klobuchar (民-ミネソタ)	Kohl (民-ウィスコンシン)
Lautenberg (民-ニュージャージー)	Leahy (民-バーモント)	Levin (民-ミシガン)	Lieberman (無-コネチカット)
Lincoln (民-アーカンソー)	Martinez (共-フロリダ)	McCaskill (民-ミズーリ)	Menendez (民-ニュージャージー)
Mikulski (民-メリーランド)	Murray (民-ワシントン)	Nelson (民-フロリダ)	Nelson (民-ネブラスカ)
Pryor (民-アーカンソー)	Reed (民-ロードアイランド)	Reid (民-ネバダ)	Rockefeller (民-ウェストバージニア)
Salazar (民-コロラド)	Sanders (無-バーモント)	Schumer (民-ニューヨーク)	Smith (共-オレゴン)
Snowe (共-メイン)	Stabenow (民-ミシガン)	Sununu (共-ニューハンプシャー)	Tester (民-モンタナ)
Warner (共-バージニア)	Webb (民-バージニア)	Whitehouse (民-ロードアイランド)	Wyden (民-オレゴン)

反対 36 不在 16 合計 100

II. 不在者及び反対者の分析

1. 不在者のうち、以下 6 名は議事妨害終結に賛成という意思を文書で表明

Biden (民-デラウェア)	Clinton (民-ニューヨーク)	Coleman (共-ミネソタ)
Kennedy (民-マサチューセッツ),	McCain (共-アリゾナ) ^(※)	Obama (民-イリノイ)

(※) ただし、McCain 議員は、議事妨害終結には賛成だが「原子力発電の推進が盛り込まれていなければ、法案には賛成できない。」としており、LW 法案に賛成とは言えない。

2. その他の不在者又は反対者のうち、以下 6 名はビングマン・スペクター法案 (BS 法案) の提案者又はマケイン・リーバーマン法案 (ML 法案) に賛成票を投じた者

Murkowski (共-アラスカ)	Specter (共-ペンシルバニア)	Stevens (共-アラスカ)	BS 法案の 提案者
Gregg (共-ニューハンプシャー)	Johnson (民-サウスダコタ)	Lugar (共-インディアナ)	ML 法案に 賛成票

3. その他の不在者又は反対者のうち、以下 6 名は、ドメニチ・ビングマン決議 (DB 決議) に賛成するなど、義務的な温暖化ガス削減の支持者

Alexander (共-テネシー)	Graham (共-サウスカロライナ)	Landrieu (民-ルイジアナ)	DB 決議に 賛成票
Dorgan (民-ノースダコタ),	Conrad (民-ノースダコタ)	Corker (共-テネシー)	その他の場 で支持表明

以上を考慮すると、計 66 名が、何らかのキャップ・アンド・トレード (C&T) 法案に対する潜在的な支持者であると考えられる。他方、いわゆる C&T 法案と、LW 法案という特定の法案に対するスタンスは分けて考える必要があり、60 票を獲得できる特定の法案の策定に向けて、引き続き検討が進められるとみられる。(例えば、LW 法案の議事妨害終結採択で賛成した 48 名のうち、9 名は「議事妨害終結採決には賛成であるが、LW 法案には賛成できない」という内容の文書を公表している。)